

長岡京左京六条三坊二町跡（水垂E1区）発掘調査現地説明会資料

1993年1月24日

所在地 京都市伏見区淀樋爪町

調査期間 1992年4月1日～現在継続中

調査面積 約12000㎡

調査主体 (財)京都市埋蔵文化財研究所

今回の調査のあらまし

調査は、京都市清掃局埋立処分地の拡張工事にとまなうもので、今回はE1区の説明をします。前回の説明会を行ったE2・3区の北側にあたります。

長岡京のようす

今から千二百年あまり前に、奈良にあった都（平城京）が乙訓の地に移され、「長岡京」と呼ばれました。長岡京は、東西約4.3km・南北約5.3kmの大きさがあり、北側中央には天皇の住まいや、国のことを決める役所「長岡宮」（東西約1km、南北約1.6km）があります。京内は、東西・南北に交差する大路（幅24m）と小路（幅10m）によって基盤目のように分けられ、貴族・役人などの家や市場などがありました。そのころの長岡京には、およそ10万人ほどの人々が住んでいたと推定されます。京内の区画は「町」（120m四方）と呼ばれ、住居表示は「〇条〇坊〇町」となっていました。

しかし、この都もわずか10年で今の京都市（平安京）に移され、もとの水田や畑にもどりました。今は何も残っていませんが、土の中にはその跡が残っているのです。

左京六条三坊二町のようす

調査地は長岡京の南東部で、1町の南半分の発掘調査ができました。六条三坊二町は東西幅が120mあります。まわりの道路（南側の六条条間大路・東側の東三坊第一小路）の溝は片側しか造られていませんでした。これまで周辺の調査と合わせると、「長岡京」の南東部では条坊の道路工事が行われていない部分があることが分かりました。これは造営の初めに計画したが、造らなかったためと考えられ、長岡京がどのように造られたかを考える上で重要なことです。

左京六条三坊二町の宅地は、1町の南西隅だけを利用し、他に生活した跡はありません。宅地の大きさは当初東西45m（15丈）、南北30m（10丈）、面積1350㎡（409坪）で造られています。1350㎡の宅地といえば、現在なら大きい方ですが、下級役人とはいえ大家族の

家には使用人も含め数10人は住んでいたと思われ、決して広くはなかったようです。

京内の宅地は、身分に応じて分け与えられ、貴族の宅地は広く、下級役人や庶民の住まいは小さいものです。これまでの長岡京の調査では、奈良時代以前の1町を32に分ける方法（東西に4列、南北に8つ）をもとにしていると考えていました。今回調査した宅地は三町で見つかった宅地と同じく、これとは異なっています。長岡京右京六条三坊の宅地の売り買いにあたり、「長さ15丈、広さ10丈」と書類に書かれ、土地を一町の何分の一ではなく、じっさいの広さで表している例があります。

宅地のようす

宅地内の建物の柱穴を見ると、1度埋めた後に少しずつしてまた柱穴を掘っており、建て替えが行われています。発見された建物は、その並びや柱穴の大きさによって造営時（1期）のもの、改築後（2期）のものに分けられます。

造営時にはまず、溝（溝1）を掘り、宅地の北と東を決めます。建物は西と東の屋敷に分かれます。西は東西方向の主屋（建物4）を中心に、規模が同じような建物が南・東2棟あります。東は東西の主屋（建物6）があります。敷地の北と南に井戸があります。

その後、溝1を埋め、溝2をつくり、建物4の北に南北方向の建物5を、建物6の東に小規模な建物7を建て増しをしています。。

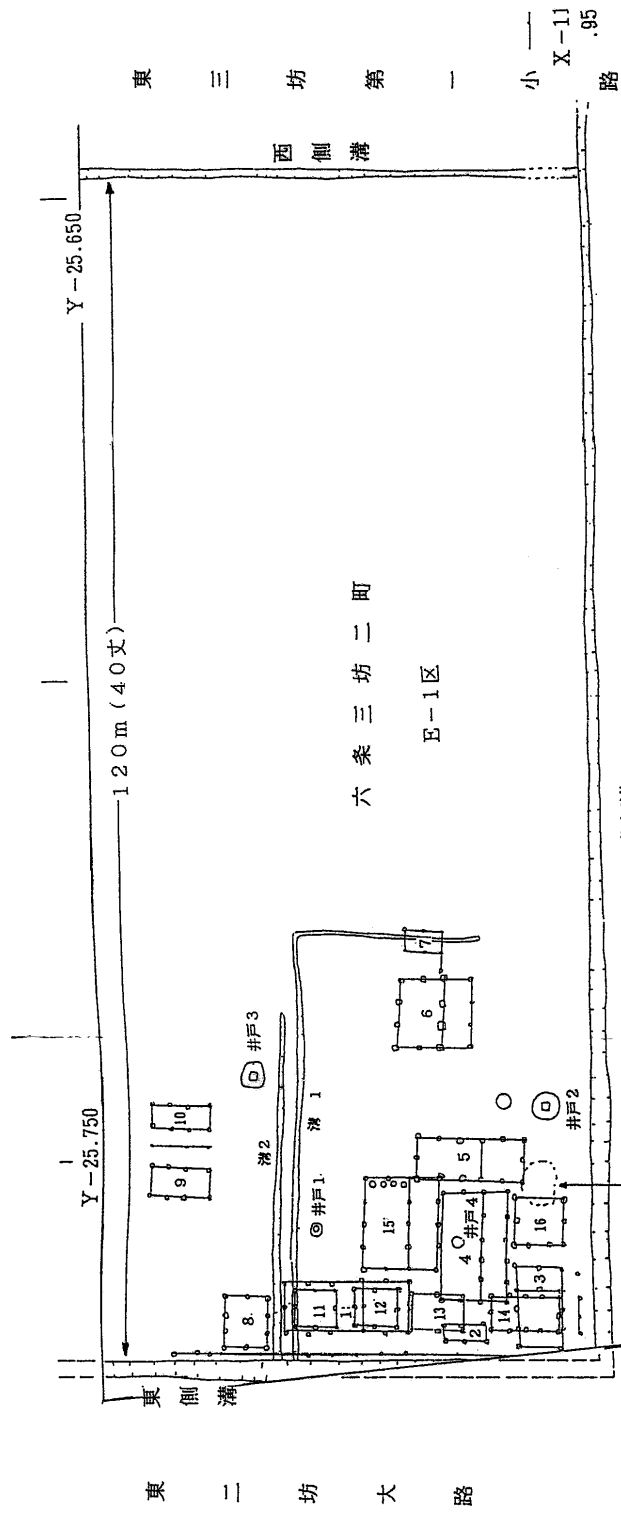
その後全面的に改築しています。建物は北と南の屋敷に分けられます。南の屋敷は東西方向の主屋（建物15）を中心に、南北方向の小規模な建物が南に1棟・西に4棟並びます。北の屋敷は東西方向の建物（建物8）と、東に小規模な建物2棟があります。宅地と道路の間には柵が2本あります。敷地の中には井戸やゴミ捨て穴があります。

建物は地面に穴を掘って柱を建てる「掘立柱建物」で、屋根は板などでふいていました。柱の太さは直径約20cmで、柱の間は1.5～2mと狭く、建物は大きいもので（建物14）面積76㎡で、小さいものは（建物2）面積7㎡ほどです。室内は間仕切りしたものもあるが、たいがいは1フロアです。室内にカメをすえた跡が見られる建物（15）もありました。

くらしのようす

住宅で使われた様々な生活用品は、宅地内のゴミ捨て穴や、道路の溝に捨てられていました。土器には、赤くて軟らかい「土師器」と、灰色で硬い「須恵器」があり、食卓にならぶ椀・皿や壺などの他に、米や水などを貯えるカメ、煮炊きをするカメがあります。

また、道路の溝の中からは顔をかいた人面土器や、粘土で馬を型どった土馬など、祭で使った道具が入っていました。

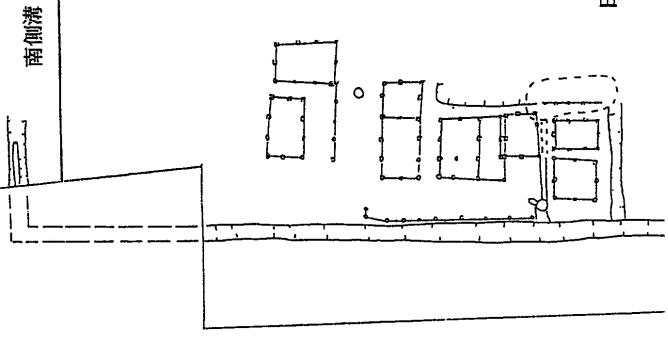


六条々間大路

建築物一覧表

棟方向	間数	梁行き長m	桁行長m	面積㎡
建物1	2*5	5.4	12.8	69.1
建物2	1*2	1.8	4.3	7.7
建物3	2*4	4.8	8.7	41.8
建物4	3*5	6.7	11.1	74.4
建物5	2*5	4.3	10.9	46.9
建物6	3*3	7.5	7.1	53.3
建物7	1*2	2.3	3.8	8.7
建物8	2*3	4.5	4.3	19.4
建物9	1*3	3.0	5.6	16.8
建物10	1*3	2.5	5.1	12.8
建物11	2*2	3.8	4.4	16.7
建物12	2*2	4.0	4.7	18.8
建物13	1*2	3.7	5.5	20.4
建物14	2*4	3.7	5.9	21.8
建物15	3*4	7.8	9.8	76.4
建物16	2*3	4.5	4.9	22.1

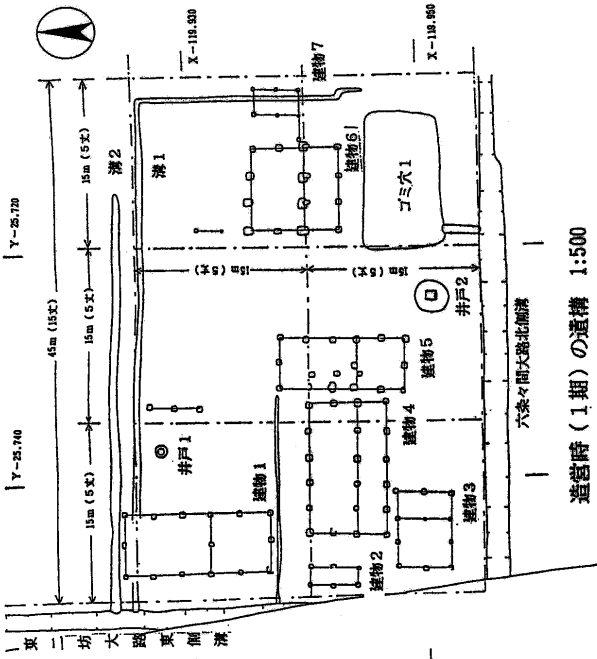
六条三坊三町
E-2・3区



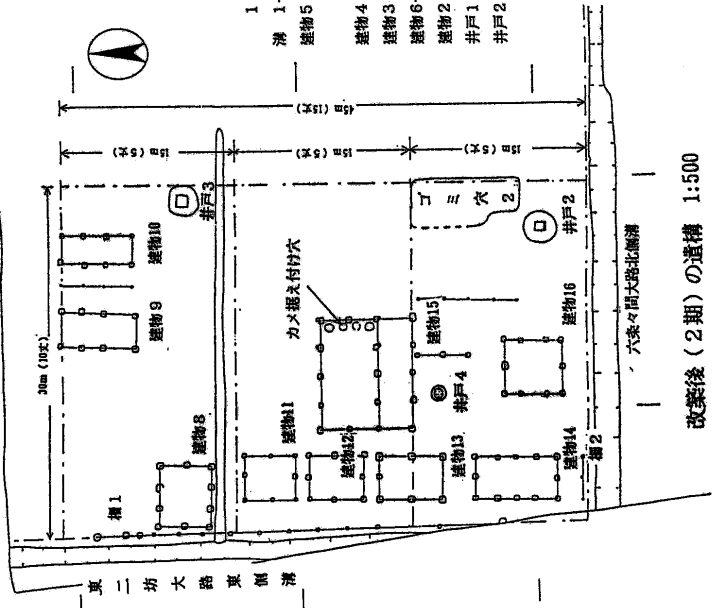
町のようす (1:600)



左京210次調査 (長岡京市)



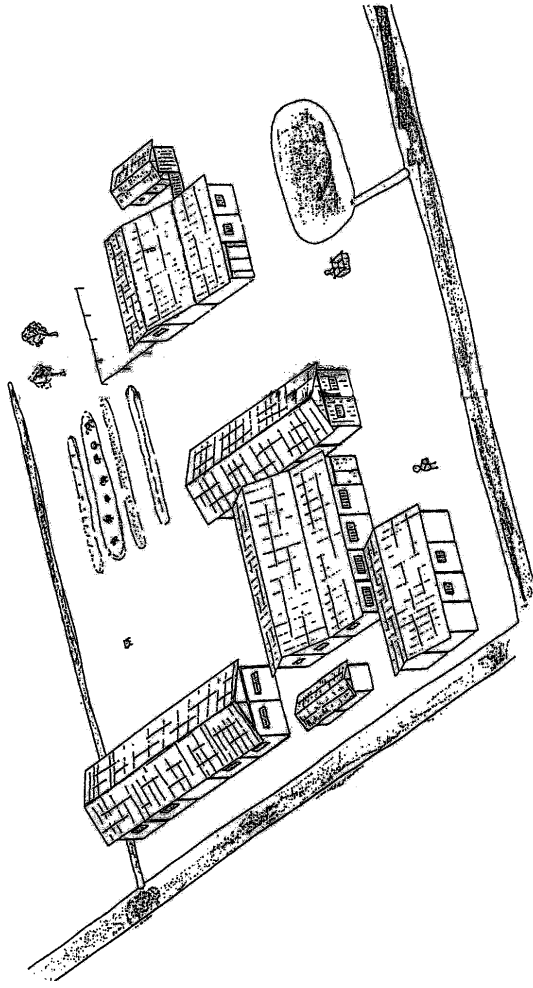
運営時（1期）の遺構 1:500



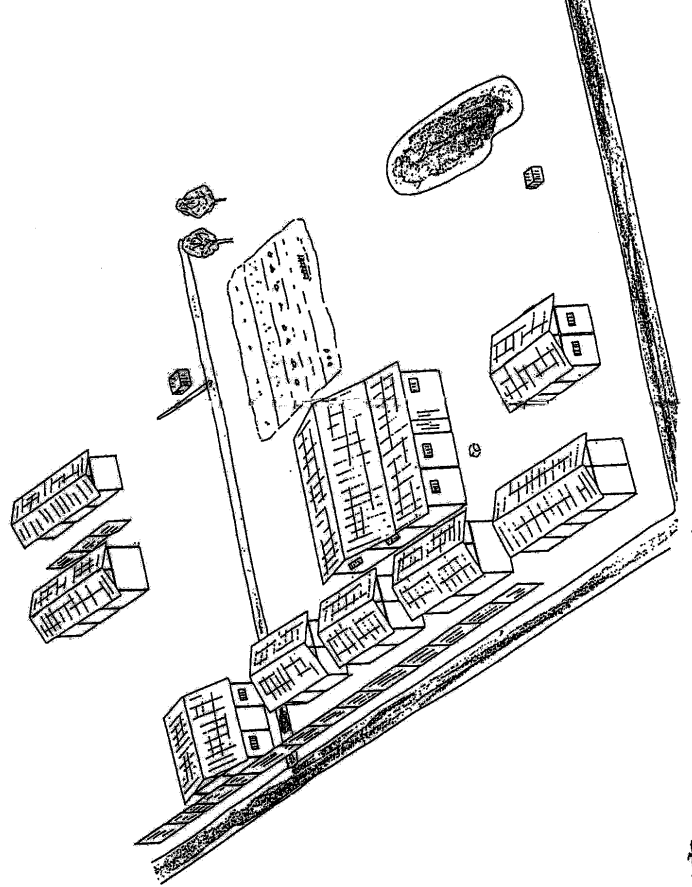
改築後（2期）の遺構 1:500

遺構の新旧関係

- | | |
|---------|---------|
| 1期 | 2期 |
| 溝1 → 溝2 | 建物11・12 |
| 建物5 | 建物1 |
| 建物4 | 建物7 |
| 建物3 | 建物15 |
| 建物6 | 建物14・16 |
| 建物2 | 建物8~10 |
| 井戸1 | 建物13 |
| 井戸2 | 井戸4 |
| | 井戸3 |
| | 溝1・2 |



運営時の復原図



改築後の復原図

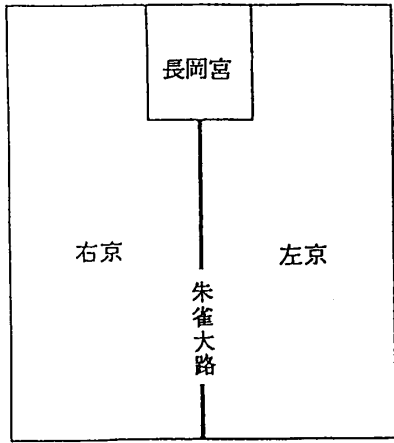
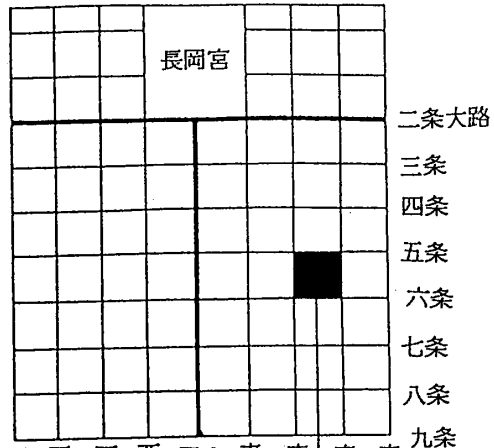


図1



西 西 西 西 西 東 東 東 東
四 三 二 一 一 二 三 四
坊 坊 坊 坊 坊 坊 坊 坊

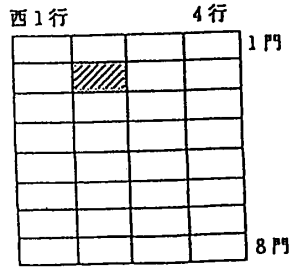


図4

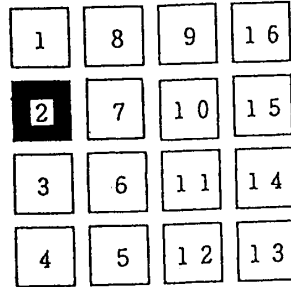
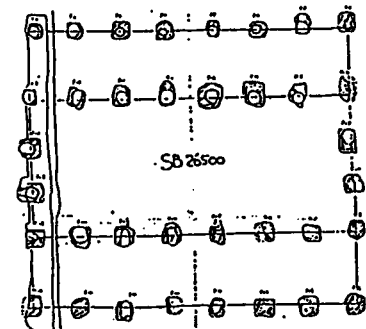
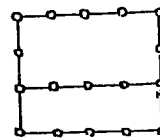


図3

長岡京のようす



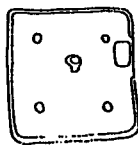
東院の正殿 (378m²)



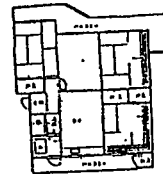
建物15 (76m²)



建物 2 (8m²)

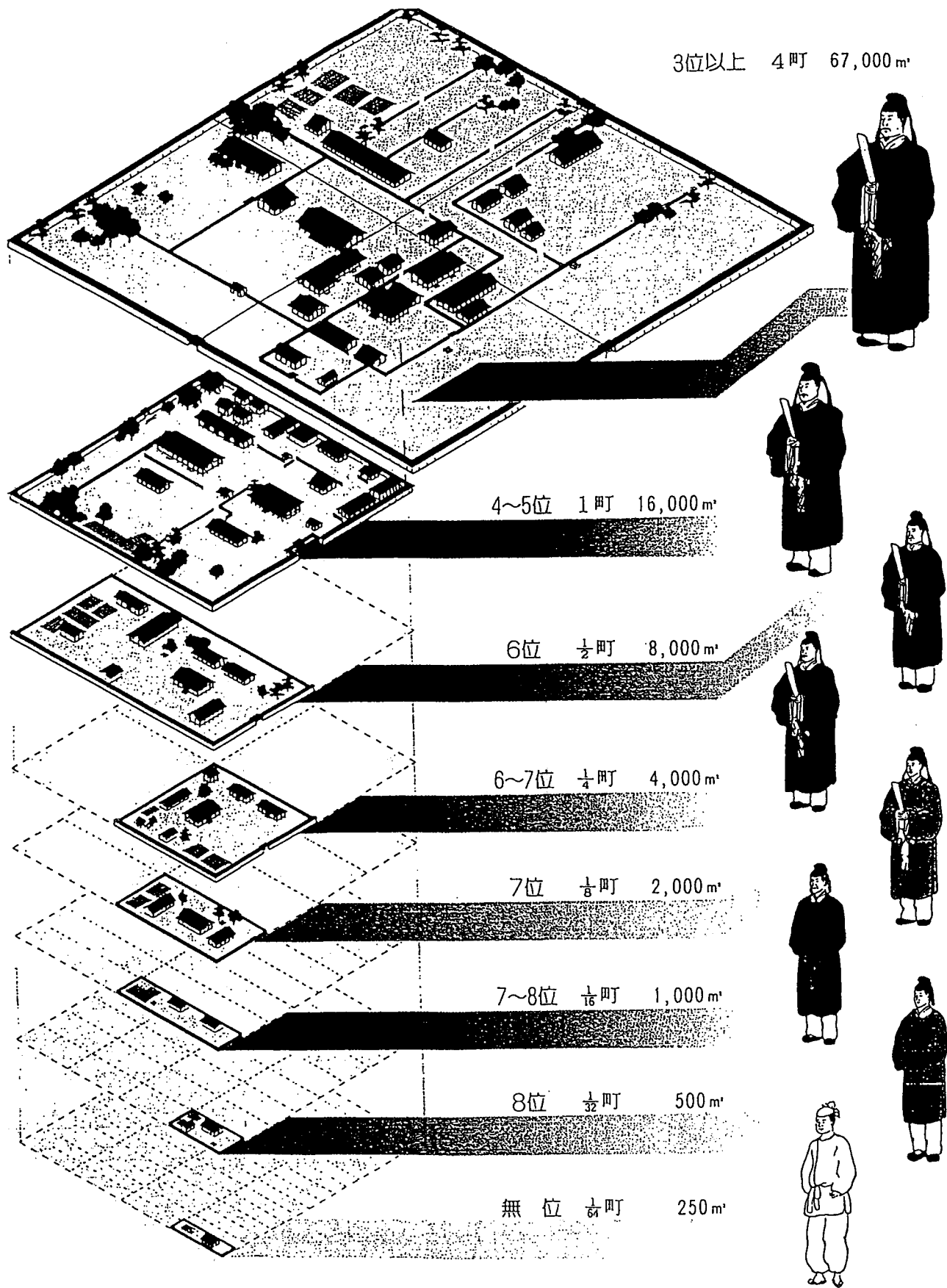


古墳時代の竪穴住居 (56m²)



現在のマンション (60m²)

建物をくらべる (1:500)



宅地の割り当て基準 Variations of Residential lot according to the class

『平城京展』図録より